

昨年度に MDASH リテラシーレベルの認定を受け、昨年度と同様に点検・評価を行ったので、その結果を以下に示す。

1. 学内からの視点

(1) プログラムの履修・修得状況

全学科 1 年生が前期に教養必修科目の「人間と情報」を履修し、その単位の取得をプログラムの修得としている。履修登録の確認期間中に学務課の協力を得て履修漏れがないことを 2025 年 4 月 16 日の講義で確認できている。追再試の成績評価が終了した時点で、退学や休学などの理由がある学生を除いて本プログラムの単位を 241 名が 1 年次前期で修了条件を満たした。その中で 2 名は昨年度に本プログラムを修了できなかった 2 年生が含まれ、今年度に本プログラムの単位を認定した。

(2) 学修成果

健康福祉学科の成績評価を 2025 年 8 月 4 日までに提出することが条件であったため、その時点での成績評価は 7 名を除いて、修得条件を満たしていた。不可になった 7 名は、追再試を申込んで該当者に特別課題を提出させて再評価し、その結果は単位認定の基準を満たしていたので、プログラムの単位が必要な履修者全員が修得したことにより、学修成果を適切に評価できているといえる。

(3) 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

授業アンケートの問 3 「この授業の目的や「学修成果」、成績評価の方法・基準、内容についてどの程度理解できましたか。」において、(4)で授業の内容に関する理解度を問う項目があり、「大変良く理解できた」および「よく理解できた」を合わせた回答率が 93.3% だったので、大半の学生が理解できていると考えられる。

(4) 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

該当科目が必修となっていて後輩等他の学生への推奨は特に必要ではないが、総合評価値は満足度を表す指標でもあると考えられ、それが 3.55 であったことにより後輩等他の学生への推奨度は高い可能性があると考えられる(総合評価値の上限は 4.0)。「大変良かった」および「良かった」を合わせた回答率が 91.9% だったので、(3)に示した「大変良く理解できた」および「よく理解できた」と同様の傾向があり、「大変良く理解できた」および「よく理解できた」の満足度が高くなつたと考えられる。今年度は昨年度よりも総合評価値が 0.1 上がっている。

(5) 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

該当科目はプログラム修得において必修となっていて全学科の 1 年生が履修し、それを今後も継続させる。総合評価値を安定させるためにも全学科 1 年生の必修科目として開講することが必要であると考えられる。

(6) 数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

授業アンケートにおいて、授業形態・方法に関する質問が問2に9個あり、「体験的な学習(実習、実験、フィールドワーク等)の機会があった」に注目すると、「大いにあった」「いくらかあった」を合わせた回答率が84.8%であり、多くの学生が満足できていたと考えられるので、数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させている授業であったと考えられる。

(7) 内容・水準を維持しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

授業アンケートにおいて、授業形態・方法に関する質問は学修成果を高めるためにどのような工夫がなされていたかどうかを9問の回答状況で把握することができ、「教材(配布資料、板書、スライド等)が工夫されていた」や「期末試験の他に、小テストやレポートなどの課題が出された」が特に高かったことから内容・水準が適切であったと判断し、「分かりやすい」授業であったと考えられる。

2. 学外からの視点

(1) 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

本プログラムは令和5年度からプログラムを開始し、今春から本プログラム修了者の1期生が地域の民間組織(企業、自治体、団体等)に所属しているが、MDASHが十分に認知されていないこともあります。本プログラム修了者の1期生に対する評価を得ることは困難であった。各学科のプログラム修了者の進路は以下で公開されている(2025年9月2日現在)。

<https://www.toyama-c.ac.jp/info/emp/employment.html>

地域の民間組織に本学のプログラム修了者を評価していただくには、MDASHのリテラシーレベルに準拠した本プログラム関連のウェブページを通じて認知していただくことが課題である。また、学生が就職した組織の意見も聞きながら、プログラムの改善を検討する必要もある。

(2) 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

本学は「一般社団法人富山県経営者協会IT・インフラ部会」に加入していて、その意見交換会などが年2回開催されている。令和7年度も「生成AIの利用」に関する議論を部会が開催され、その際に参加している企業に本学の取り組みを説明し、それに対する以下の貴重なご意見をいただいた。

[X社の意見]

貴学のプログラムは、ティーチングアシstant制度の導入を通じて、修了生が教育者として経験を積む機会を提供しており、これは非常に高く評価できます。この取り組みは、教育プログラムの質の向上に繋がるだけでなく、現代社会が求めるデジタル人材育成に大きく貢献していると考えられます。貴学のプログラム修了生の1期生が学んだ成果を活かし、地域社会で活躍していくことを楽しみにしています。

[Y社の意見]

貴学のプログラムは、実践的な演習を通じて即戦力となる人材を育成しているので非常に高く評価できます。文部科学省の認定を受けたこのプログラムは、特に地域のデータを活用した課題解決を通じて、学生に現実のビジネス課題に取り組む機会を与えている点に特徴があります。このような教育の取り組みは、データサイエンスの知識と実際のビジネス現場で求められるビジネススキルを兼ね備えた人材育成に不可欠ですので、貴学のプログラムがさらに発展することを期待しています。